

令和8年2月3日

関係者の皆様

かどのスマイル西っ子隊(学校運営協議会)

会長 中村美穂

R07年度 かどのスマイル西っ子隊(西小学校運営協議会)活動に関するアンケートまとめ

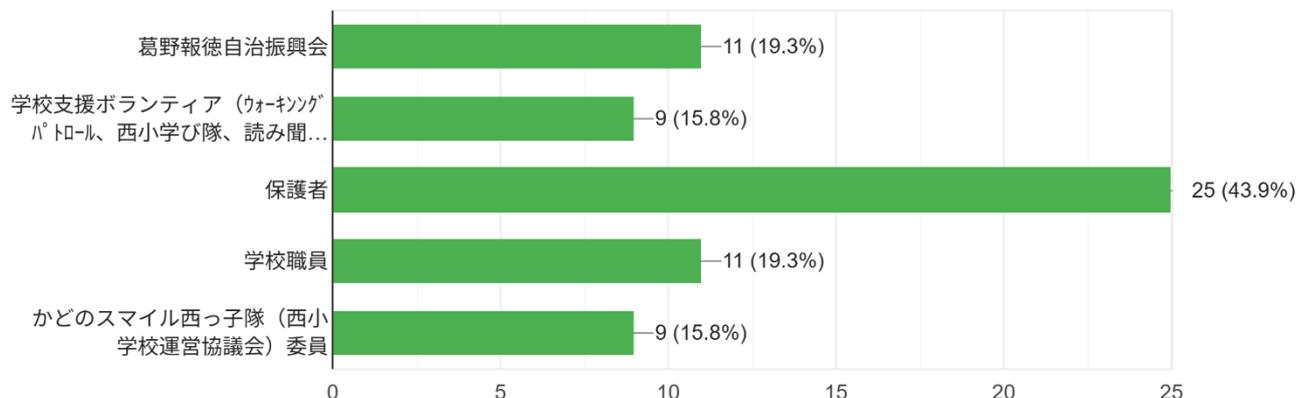
日頃は、本会の活動にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

過日、お願いしたアンケートにつきまして57件の回答をいただき、下記のようにまとめましたので、お知らせいたします。なお、自由記述のご意見は、内容を損なわない範囲で要約し、同様のものはまとめて記載させていただきました。ご了承いただければ幸いです。

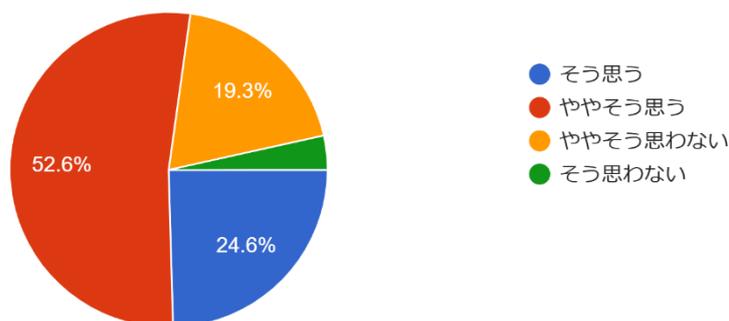
つきましては、この結果を元に「明日も行きたくなる西小学校」に向けてかどのスマイル西っ子隊で話し合い、より良い活動につなげていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

記

1. あなたの所属について、当てはまるものをすべて選んでください。



2. 「かどのスマイル西っ子隊(学校運営協議会)」の活動は、地域に周知されていると思いますか。



3. 現在、「かどのスマイル西っ子隊」として行っている活動について、「さらに工夫できそうな点」、「新しく加えることで良くなる活動」があれば、自由にご記入ください。

学校運営協議会(コミュニティ・スクール)のアンケート結果「かどのスマイル西っ子隊」の活動に関する自由記述を、項目別に整理し、今後の方向性をまとめました。

1. 令和かどの塾・長期休暇中の活動

最も意見が多く、ニーズが高い分野です。

- ・ **体験活動の充実:** 自然体験、レクリエーション、工作、絵画教室、伝承遊び(こま、凧揚げ)、ピクニックなど、非日常的な体験を求める声。
- ・ **食支援(子ども食堂的役割):** 夏休みのカレー作りが非常に好評で、回数増を希望する声が多い。「働く親のお弁当作りの負担軽減」や「成長期の食の安全」という切実な視点が含まれています。
- ・ **居場所づくり:** 休み中に友達と会える場、気軽に寄れる場所としての機能を強化し、人権条例に基づいた「安心して居られる居場所」を目指す。

2. 学び隊・クラブ活動

- ・ 子どもたちの「自主性」と「専門性」の掛け合わせがキーワードです。
- ・ **子ども主体の運営:** 子どもたちの「やりたい」という声を聞き、形にする(例:ダンスクラブ)。
- ・ **講師の確保:** スポーツ(球技)や特技を持つ講師の募集。子どもの希望に合わせてボランティアを募る仕組み。
- ・ 実施回数の増加の希望や活動内容の事前周知を丁寧に行うなどの意見もありました。

3. 地域活性化・見守り(ウォーキングパトロール・あいさつ隊)

- ・ 活動を「学校支援」だけでなく「地域づくり」へと広げる視点です。
- ・ **多世代交流:** 各地区中心の活動にすることで、幅広い年齢層を巻き込み、地域の活性化につなげる。
- ・ **勧誘の工夫:** 退職後の方など、潜在的な協力者への「声かけ」を重視。
- ・ 登校班の集合・時間調整を工夫することで、パトロールや立番の負担を軽減する。

4. 地域学習・郷土愛

- ・ **かどの魅力再発見:** 地域の良さを知らない子どもたちのために、地域を歩き、発見する活動の提案。
- ・ **成果の還元:** 「冬祭り」などで、子どもたちの学びを地域に紹介する機会(先生の負担に配慮しつつ検討)。

4. 「かどのスマイル西っ子隊（西小学校運営協議会）」活動に対する自由意見

活動への深い感謝と、地域コミュニティの核としての期待が寄せられています。

1. 活動への感謝と肯定的な評価

- ・見守りの安心感: ウォーキングパトロール隊の存在が、子どもの安全（歩行ペースや列の整列）に直結していると高く評価されています。
- ・世代間交流の喜び: 「子どもに顔を覚えてもらえて嬉しい」というボランティア側のやりがいや、音楽会・山登りなど具体的行事への感謝が多く見られます。
- ・広報誌「きずな」は、活動を伝える媒体として定着し、楽しみだという声があります。

2. 周知と関心の拡大（地域全体への広がり）

- ・情報格差: 「小学生がいない家庭には活動内容が届きにくい」という切実な指摘あり。
- ・広報の強化: 自治振興会の会議での報告や、各集落（部落）への伝達ルートを復活・強化し、地域全体で情報を共有する必要性が挙げられています。
- ・巻き込み: 子育て世代や、退職後の層など、さらに「老若男女」を巻き込んだ活動への発展を望む声が目立ちます。

3. 学校環境・運営への提案

- ・環境整備: 児童減少に伴う「運動場の草引き」への協力。有線放送を活用したボランティア募集など、具体的な手法の提案がありました。
- ・図書室の充実: 地域や保護者の意見を取り入れた、魅力ある図書室づくりへの意欲。
- ・連携の強化: 学校と自治会をつなぐ「西小協力委員」の計画的な活用や、PTA・既存のスポーツ団体とのさらなる連携。

4. 交流と対話の場

- ・ボランティア同士の交流: 各々が活動するだけでなく、隊員同士が話し合い、他の活動を知る場が求められています。
- ・共創の視点: 「子ども・保護者・先生・地域」の4者が一緒に楽しめる活動を企画したいという、前向きな意欲が見られます。

今後の活動に向けたヒント

| | |
|------------|---|
| 交流の場づくり | 子どもや保護者、地域の声を活かした、誰もが集える魅力のある図書室づくりなどの具体的な活動。 |
| 連携行事の継続 | 山登りのような、地域資源（自然）を活用したPTAと地域が合同で行う行事の定例化。 |
| ボランティアの仕組み | 草引きボランティアなど、単発・短時間で参加できるメニューの提示や有線放送での呼びかけなどの工夫。 |
| 地域周知の継続 | 学校運営協議会便り「きずな」の発行の継続等による情報提供、回覧板の活用、未就学児・高齢者世帯へのPR。 |